好奇心漫遊記：世の中面白い事だらけ

社会科編−９：トイレ様々

矢澤　洋爾

アメリカへ行くと誰でも最初に驚くのがトイレだ。下が大きく空いて丸見えのドア、というか仕切板を見ると、若干たじろいでしまう、と言うのが普通の日本人の感覚ではないだろうか。
いろんな土地のトイレを見るとその国の文化が分かる。？。トイレ研究家にでもなろうか。

写真-1

ということで、アメリカの向こうを張って、そんなに下を空けるならいっそのこと仕切板を全部取り払ってしまえ、と言う提案を中国で見た。写真１：北京明都飯店のロビーのトイレ。下が空いているどころか、仕切板が全くない。この設計思想は何か。実際利用してみると用を足している間は特に問題ないのだが、脱衣着衣の最中は出来れば誰も近くにいて欲しくない、と思わずにはいられない。用が終わっても、そばに人がいる限り便座に座り続け、あたかもまだ用が足せない振りをした。妻が天安門広場の公衆トイレに入ったときは、ドアはあるのだが鍵が壊れていたとのこと。知人と代わりばんこにドアの前で門番をしたらしいが、いつドアが開くかハラハラするよりはいっそ何もない方が心構えも出来ていいのかも知れない。因みに手前のブースはドアがある。こちらは中を覗くと和式のトイレ。流石に後ろ向きに座る場合にはドアは不可欠と考えたのか。でも、待てよ。和式が後ろ向きで様式が前向きに座るのは何か必然性があるのかな？

写真-2

トイレのドアと言えば韓国の高速道路のサービスエリアのトイレのドアが写真-2。ここ全体が男子トイレだから敢えて個別のブースに男性用と明示する必要はないと思うのだが、表示板が余ったのだろうか？二つが同じものでないところを見てもやっぱり余りものなんだろうなあ。

中国北京のみやげ物屋のトイレは洋式か和式かの表示があった。(写真-3) 中は確かに和式と洋式だが、はて、中国でも「和式」と言うのだろうか？このみやげ物屋が日本人専用だからそういう表記になったのかな？

写真-3

同じみやげ物屋の男子トイレ。写真-4 の仕切り板に注目して欲しい。くの字に折れた壁に沿って便器が設置してあり、仕切り板は一方の壁に垂直に取り付けられている。その右の便器の窮屈そうな事。ちょっと可哀相な感じ。日本ならおそらく「く」の字の二等分線で仕切り板を取り付けるんだろうなあ。

写真-4

写真-5

と思って北京は五道口のデパートへ行ったら、そこにはまた別の面白さがあった。

（写真-5）直角の壁に沿って配置された便器。ここは仕切り板なし。こんな時、日本だったらどうするのかなあ？何度か思い返してもこういう配置を思い出さない。

写真-6

仕切りと言えば、もう一つ。北京の地下鉄構内のトイレ。（写真-6）仕切りと物置を兼用したような工夫。手にぶら下げたカメラを置くのには便利だった。でも本当はここに花瓶か何か飾りたかったのかなあ。

写真-7

日本にだって変なトイレがあるよ。

写真-7 は以前にも紹介した新宿の地下道にあるトイレ。仕切り板の場所がどう考えても腑に落ちない。まあこれなら真ん中にあってもあまり役には立たないのかも知れないが。

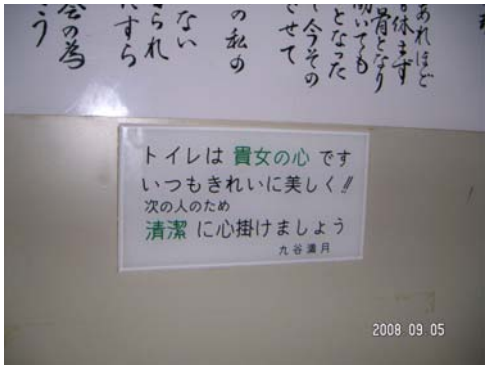

写真-8

写真-8 は石川県の九谷焼を売るみやげ物屋のトイレの中にあった張り紙。これを見て一瞬、間違えて女子トイレに入ってしまったのだろうかと思いあわてて外に飛び出した。男子トイレにあるんだから「あなた」と言いたければやっぱり「貴殿」と表記して欲しいなあ。

写真-9

最後にこれも以前紹介したけど、上海で見たトイレ。（写真-9）この便器の奥に男性用の小便器がある。うむ、一体どういうシチュエーションを想定してこのトイレは計画・施工されたのだろうか？

（2009.3.16）